

8月9日(日)

長崎原爆の日

山田洋次監督作品

上映

©2007「母べえ」製作委員会

第15回

タイトル題字 吉永小百合さん

戦争の記憶と記録を 語り継ぐ映画祭

2026年8月8日-9日 池袋「新文芸坐」

©2015「母と暮せば」製作委員会

8/8 (土) 9:40～『一枚のハガキ』
上映後、映画祭15年記念トーク

「新藤兼人 不屈の魂」

ゲスト：新藤次郎さん

聞き手：立花珠樹さん

©2011近代映画協会 渡辺商事ブランドス

8/8 (土) 13:20～『花物語』
上映後トーク「花は心の食べ物」

ゲスト：高橋恵子さん

聞き手：八神徳幸さん

©KADOKAWA1989

8/9 (日) 長崎原爆の日 2本立て

9:40～『母べえ』

12:30～『母と暮せば』

上映後トーク 15:00～

ゲスト：山田洋次監督
吉永小百合さん

聞き手：立花珠樹さん



8月8日（土）

9：40～11：40 上映『一枚のハガキ』上映後 10分休憩

上映+トーク付き

11：50～12：35 新藤次郎さん・立花珠樹さん（聞き手）トークショー（45分）



©2011近代映画協会 浪辺商事ブランドス

【監・原・脚】新藤兼人【撮】林雅彦【音】林光
 【美】金勝浩一
 【出】豊川悦司、大竹しのぶ、六平直政、柄本明、
 倍賞美津子、大杉蓮、津川雅彦、川上麻衣子、
 絵沢萌子、磨赤児

2011年製作/カラー/35mm/114分

『一枚のハガキ』

<作品解説>※

「今日はお祭りですが あなたがいっしょじゃないので 何の風情もありません」……一枚のハガキを戦友から託された男がその妻を訪ねる。新藤が軍隊経験を証言した『陸に上った軍艦』でも描かれた、同年兵から奥さんのハガキを見せられたエピソードから着想したという。普通の人生を狂わせる戦争への怒り、生き残った者の悲しみとともに生への讃歌を力強く奏でる新藤の最後の作品。撮影時98歳、映画作家としての執念と持続する志に脱帽！ キネ旬1位。ブルーリボン監督賞。毎日映コン大賞、脚本賞。

撮影時98歳 新藤兼人監督 渾身の遺作



新藤次郎さん

1949年神奈川県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒。在学中より新藤兼人作品中心に独立プロのスケジュールを担当。79年から三船プロダクションにて『大江戸捜査網』（テレビ東京）のプロデューサーを担当。86年『ブラックボード』から近代映画協会にてプロデューサーを務め、現在、代表取締役社長。協同組合日本映画製作者協会理事。授賞：SARVH賞芸術選奨文部大臣賞藤本賞。



聞き手・立花珠樹さん

1949年北九州市生まれ。映画評論家。共同通信社客員論説委員。一橋大卒。74年共同通信社入社。ニューヨーク支局を経て、90年代初めから黒澤明、三國連太郎、渥美清、高倉健ら多くの映画人取材。著書に『新藤兼人 私の十本』ほか、若下志麻、若尾文子、香川京子らの映画本や吉永小百合との共著『私の愛した映画たち』も。近著『映画から世界が見えてくる』など。

8月8日（土）

13：20～15：00 上映『花物語』上映後 10分休憩

上映+トーク付き

15：10～15：55 高橋恵子さん・八神徳幸さんトークショー（45分）



©KADOKAWA1989

【監】堀川弘通【原】田宮虎彦【脚】小森名津
 【撮】丸池納【音】小六禮次郎【美】大橋豊一
 【出】高橋恵子、蟹江敬三、藤原亮、菊地彩美、
 石橋蓮司、佐々木すみ江、杉山とく子、殿山泰司

1989年公開/カラー/35mm/95分

『花物語』

<作品解説>※

敗色濃厚な戦争末期、食糧難から花畑は野菜や穀物に転用するよう「花栽培禁止令」が出される。花を愛するハマは非国民という周囲からの視線にめげず、ひそかに山中の荒れた土地に植えるが……。種や球根まで焼き尽くす徹底ぶり、同調圧力が怖ろしく、戦争の名のもとに自由を奪われた片隅の人生がどれだけあったかを、戦闘シーンのないこの映画は教えてくれる。妻として母としての優しさ、意志を貫こうとする強さを体現した高橋恵子は、本作を「女優としての私の宝物」と語っている。

花を愛で育てることさえ禁止するのが戦争



高橋恵子さん

北海道生まれ。1970年、関根恵子の名で映画「高校生ブルース」に主演デビュー。その後、「高校生心中 純愛」「おさな妻」、ドラマ「太陽にほえろ!」、大河「信長 KING OF ZIPANGU」など映画、テレビ、舞台などで活躍。82年、映画監督の高橋伴明氏と結婚。高橋伴明監督の最新作「桐島です」に出演、プロデューサーも務める。



聞き手・八神徳幸さん

東京都出身。東京宝映テレビを経て、東京俳優生活協同組合所属。NHK「太平記」TBS「この恋あたためますか」、芸術座「糧」等に出演。ダイナミック通販等、MCでも活動中。「花物語」で高橋恵子さんの長男・勇役を演じた。

”継続は力なり”を信じて 2012年の開催から15年 原点は今も新藤兼人監督



©近代映画協会

2012年、新藤兼人監督への敬意から始まったこの映画祭は、今年で15回目を迎えます。戦争を知る人の声は少しずつ遠くなり、その記憶を受け取る私たちの役割も、年々大きくなっていると感じています。

この映画祭は、第1回目から聞き手として毎年ご協力くださっている立花珠樹さんの著書『新藤兼人 私の十本』との出会いがきっかけとなり、始まりました。

新藤作品をはじめ、映画には、記録だけでは伝えきれない、人の痛みや祈り、そして生き抜こうとする力が刻まれています。忘れてはならない記憶を、映画は今も、静かに、そして力強く私たちに語りかけてくれます。

世界では今も、戦争や分断が続いており、胸を痛める毎日です。戦争は決して過去のものではなく、名もなき人々の日常を奪っていく、私たちのすぐそばにある現実でもあります。だからこそ、一本の映画に向き合い、その後に誰かと語り合う時間を、これからも大切に守り続けていきたいと思っています。

この15年の間には、何度も「続けられるだろうか」と立ち止まることがありました。それでも続けてこられたのは、映画の中に残された声や想い、そして毎年、会場へ足を運んでくださる皆さまの姿や言葉があったからです。

小さな映画祭ではありますが、ここには、映画を通して記憶に触れ、誰かを思い、平和を願う時間があります。

これからも、戦争の記憶と記録を次の世代へ語り継ぐ場として、祈りと感謝を込めて、この映画祭を続けてまいります。

「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」代表・御手洗志帆

8月9日（日）

9:40～12:00 上映『母べえ』
12:30～14:45 上映『母と暮せば』
15:00～15:35 山田洋次監督・吉永小百合さん・立花珠樹さん（聞き手）
長崎 原爆の日トークショー（35分）

2本立て+トーク付き



©2007「母べえ」製作委員会

『母べえ』

〔原〕野上照代〔監・脚〕山田洋次〔脚〕平松恵美子〔撮〕長沼六男〔音〕富田勲〔美〕出川三男
〔出〕吉永小百合、浅野忠信、檀れい、志田未来、坂東三津五郎、佐藤未来、笑福亭鶴瓶、笹野高史

<作品解説>※

黒澤明監督のスクリプターで知られる野上の自伝が原作。昭和15年、軍国主義が強まり、治安維持法で夫が検挙された佳代は二人の娘と共に逞しく生きていく。戦時下の母を演じる吉永は1か月前から食事を減らして撮影に臨んだという。激動の時代を必死に生き抜いた人々への思いと、自由と日常を奪い去る戦争への怒りをこめ、山田ヒューマニズムの集大成とも言える家族讃歌。死ぬ間際に佳代が娘に言い残す言葉が忘れ難い。きな臭い空気が漂いつつある今こそ、観てほしい一本。キネ旬7位。



©2015「母と暮せば」製作委員会

『母と暮せば』

〔監・脚〕山田洋次〔脚〕平松恵美子〔撮〕近森真史〔音〕坂本龍一〔美〕出川三男
〔出〕吉永小百合、二宮和也、黒木華、浅野忠信、加藤健一、広岡由里子、本田望結、橋爪功、小林稔侍、辻萬長

<作品解説>※

原爆投下から3年後の長崎。ひとりで暮らす伸子の前に、亡くなった医大生の息子・浩二が現れる。奇妙だが幸福な日々の中で、気にかかるのは浩二の恋人・町子のこと……。残された者の哀しみ、母としての葛藤、膨大なセリフ、今までで一番の難役と語るが、吉永は見事に演じた。井上ひさしがタイトルを残し、長崎を舞台にするという構想を山田が受け継ぐ形で、戦後70年の年に製作。吉永のライフワークである「原爆詩の朗読」でもピアノ演奏で共演した坂本が音楽を担当。キネ旬9位、主演男優賞。



山田洋次監督

1931年生まれ。東京大学法学部卒。54年、松竹に助監督として入社。初監督作品は『二階の他人』(61)で、77年の『幸福の黄色いハンカチ』は第1回日本アカデミー賞で最優秀作品賞をはじめ6部門を受賞。69年からは『男はつらいよ』シリーズの監督、88年からは『釣りバカ日誌』シリーズの脚本を手がける。近年は米アカデミー外国語映画賞にノミネートされた『たそがれ清兵衛』(02)をはじめとした、藤沢周平原作の時代劇『隠し剣 鬼の爪』(04)、『武士の一分』(06)や、吉永小百合を主演にむかえた『母べえ』(07)、『おとうと』(10)、『母と暮せば』(15)、『こんにちは、母さん』(23)など多くの作品を世に送り出している日本を代表する監督の一人。



吉永小百合さん

俳優 東京出身。1957年ラジオドラマ『赤胴鈴之助』でデビューし、1959年『朝を呼ぶ口笛』映画初出演。1962年「キューポラのある街」でブルーリボン主演女優賞を受賞。歌手デビューも果たす。主な映画作品に『愛と死をみつめて』『動乱』『愛と死の記録』『細雪』『母べえ』『母と暮せば』『てっぺんの向こうにあなたがいる』で124本目の映画に出演。1986年、原爆詩の朗読を始める。2011年東日本大震災以降は「福島の人」「子供たちの詩」も朗読している。CD「第2楽章」はヒロシマ・ナガサキ・オキナワ・フクシマをテーマに4枚をリリース。TBSラジオ「今晚は吉永小百合です」（毎週日曜22時30分）放送中。

開催場所

新文芸坐 東京都豊島区東池袋1-43-5 マルハン池袋ビル3F
池袋駅東口徒歩5分 Tel: 03-3971-9422

予約

上映の1週間前から新文芸坐HP・窓口にて販売開始
(HPオンラインは0:00、窓口は9:00から販売)

料金

8/8（土）：『一枚のハガキ（トーク付き）』一般1700円、各種割引1300円
『花物語（トーク付き）』一般1700円、各種割引1300円
8/9（日）：『母と暮せば』『母べえ』（2本立て+トーク付き）2600円均一

※上記のイベントとは別で新文芸坐では以下の日程で映画上映があります

8/6（木）：『母と暮せば』『母べえ』

〈1本のみ〉一般1500円、各種割引1100円 〈同日2本〉一般1900円、各種割引1500円

8/7（金）：『一枚のハガキ』『花物語』

〈1本のみ〉一般1500円、各種割引1100円 〈同日2本〉一般1900円、各種割引1500円



第15回

戦争の記憶と記録を 語り継ぐ映画祭

タイトル題字 吉永小百合さん

15回目となる本映画祭は、映画祭の趣旨にご賛同くださった57名の個人、4社の法人の皆様のご支援によって運営させていただきます。本当に皆様のご厚意がなければ、本映画祭の実現はありません。心からの感謝の思いを込めて、昨年、実施したクラウドファンディングご寄付者の皆様のお名前と企業様のお名前を掲載させていただきます。

青木いずみ（移動演劇桜隊 平和祈念会）、吾妻真起、阿部由利恵（食育教室大きなかぶ）、石井賢一、石ヶ森理代、五十嵐貞一、伊与高之、上松道夫、江角裕行、江戸川区原爆被害者の会「親江会」、遠藤俊信、大竹由希子、大牟田聡、奥井知里、岡田健一郎、岡田秀樹、織田正雄、小野恵理花、金倉恵子、黒瀬克也、黒田礼子、熊谷篤、栗原陽子、肥塚葉、向後初美、兒島弘明、琴岡康二、駒林徹、近藤英生、齊藤伊佐夫、齊藤とも子、坂口栄一郎、坂下恵、滋野順子、重本ゆり、志波幹雄、杉橋真、鈴木志歩、須田俊子、立花珠樹、立花伊津美、土屋一成、直林広高、山本恵司（西東京シネマ倶楽部）、西山朋子、野田郁美、原田嘉行、濱元伸夫、平岩祥史、プリンシプルK、穂積光男、正岡久武、松本裕之、みわまさこ、毛利哲也、山本博之、吉田佳芳子、若井信二

麺屋 彩未

SUBARU OFFICE
すばる司法書士事務所

Otaru arch

天然温泉 湯の花

敬称略、五十音順で掲載させていただきます。本名が分からずクラウドファンディングのお名前でご記載の方もいらっしゃいます。訂正が必要な方はお申し出いただけますと幸いです。HPの一覧の修正をさせていただきます。



札幌にお越しの際は
ぜひ「麺屋彩未」に
お越しください



麺屋 彩未



「麺屋彩未 らーめん（味噌・醤油）」は
オンライン購入可！

店主の奥雅彦は、札幌の名店「すみれ」の味に感動し、「すみれ」で約7年間修行し、2000年9月20日に「すみれ」を離れ、同年11月3日にこの美園で麺屋彩未を創業しました。以来、多くのお客さまに「最高の一杯」をお届けするために、日々らーめんと向き合っています。来店してくれるお客さまの期待を裏切らぬよう日々研究し、一日一日、新人のつもりでらーめんを作り、それを続けていく、という「初心」を忘れることなく目の前の一杯に魂を込めて更なる高みを目指していきます。

北海道札幌市豊平区美園10条5-3-12

小樽とあなたをつなぐ懸け橋に
株式会社Otaru arch



小樽の唯一無二のサウナ
「SAUNA Otaruarch」運営

企画商品
OTARU GIN -KAZE-
小樽産ホタテ商品など

Otaru arch

相続のことなら、
すばる司法書士事務所

司法書士 石川 昂

〒286-0035 千葉県成田市園護台三丁目2番地3 川豊西口館402号室
TEL:0476-85-7896 FAX:0476-85-7897

来年開催にむけたご寄付・ご支援のお願い

映画祭開催から15年を迎えました。企画当時は23歳だった私は38歳に…。今はフルワークと子育ての合間で映画祭準備をしており、なかなか本映画祭に時間が割けず、皆さまにもご迷惑をおかけしております。このような私がこのまま映画祭を続けているのか、自問自答する毎日です。それでも、皆さまに励ましていただき、小さな映画祭だとしても、灯を消してはならないと思います。続けております。2023年から本映画祭は、運営の一部を皆様のご寄付やご支援に支えていただきながら続けております。

大変心苦しいお願いですが、どうか持続可能な開催のために、ご寄付・ご支援をいただければ幸いです。7月21日よりクラウドファンディングを開始します。詳しくは映画祭HPをご覧ください。https://www.peaceforever.jp/



戦争の記憶と記録を
語り継ぐ映画祭



映画祭HP

銀行振込で
ご寄付くださる皆さまへ
＜お振込先＞
三井住友銀行
広島支店（605）
普通 6830407
オйкаワシホ
（旧姓ミタライシホ）